

**ITS情報通信システム推進会議
路側通信システム専門委員会
16年度活動報告および17年度活動計画**

**平成17年5月
路側通信システム専門委員会**

路側通信システム専門委員会

専門委員長: 田村 成美 (NTTデータ)

DSRC規格TF

主査: 柳内 洋一 (NEC)

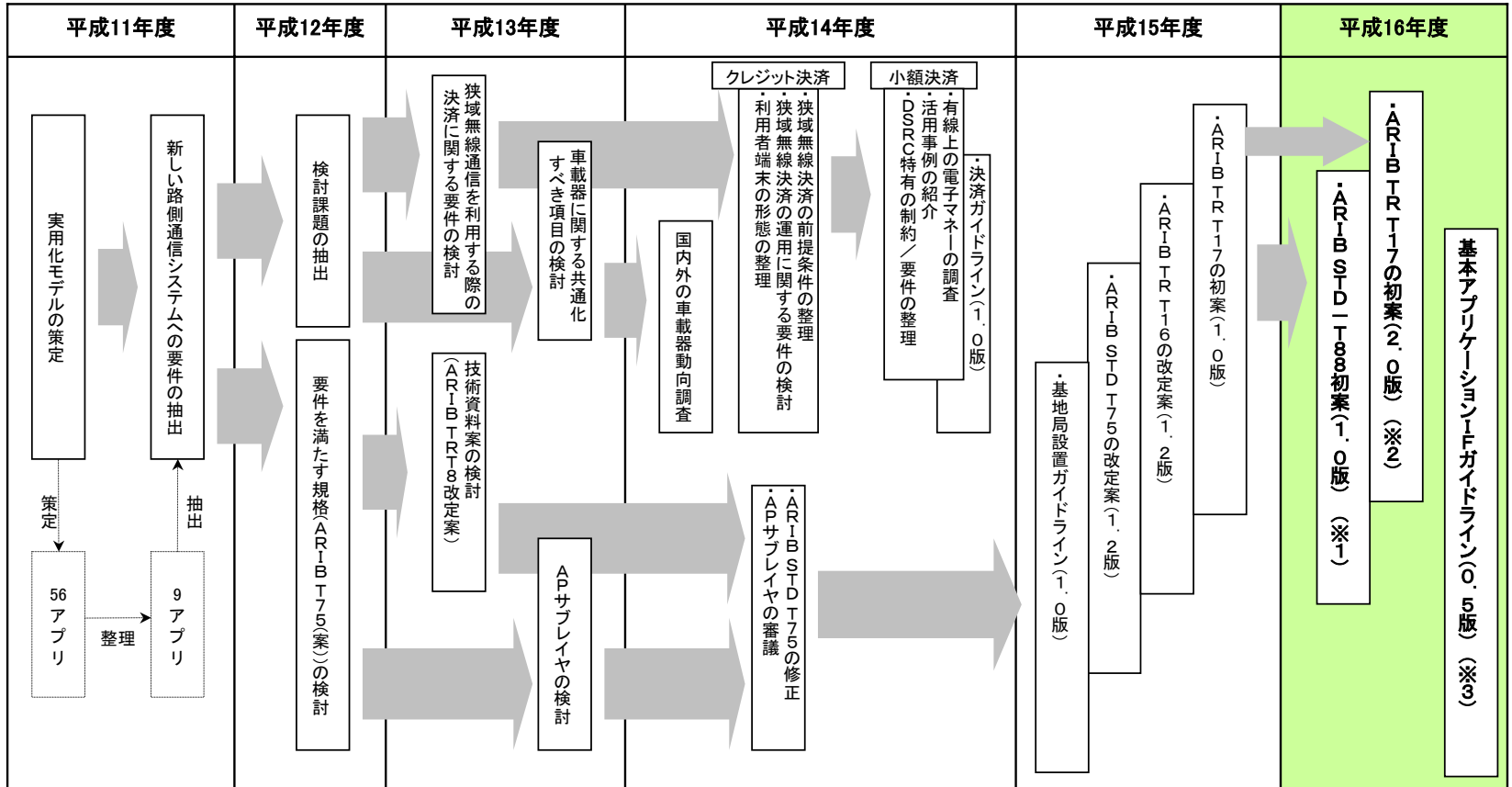
DSRC国際対応TF

主査: 小山 敏 (日立)

DSRC基本アプリケーションインタフェース検討WG

主査: 三木 宏 (松下電器)

主要標準化検討内容



※1:ITU-R SG8へ提案、勧告化へ ※2:規格部分を除いたもの
※3:外部連携により設置

DSRC規格TF

- 一昨年度にARIBで策定したDSRCアプリケーションサブレイヤ (ASL)の技術資料 (ARIB TR-T17 1.0版)の規格記述部と試験記述部と分離する審議を実施
→5月のARIB規格会議において、**標準規格 (ARIB STD-T88 1.0版) および技術資料 (ARIB TR-T17 2.0版) として策定及び改定済み。**
- STD-T88及びTR-T17の**英文化**
- ASL仕様をITU-R M.1453-1に入力する資料の作成
- ITS世界会議 (名古屋)におけるDSRC標準化の展示パネル作成

DSRC国際対応TF

- 米国DSRC(IEEE 802.11p)や欧州の**関連団体の動向調査**を行うと共に、車々間通信専門委員会のVSC TGと連携してVSC (Vehicle Safety Communications)に関する**国際協調に貢献**。
- ITS世界会議(名古屋)におけるDSRC関連の発表資料を当推進会議の英文Webサイトに掲載し、**世界への情報発信に尽力**
- ASTAP(Asia-Pacific Telecommunity Standardization Program)と連携して、**ASL仕様をITU-Rに入力する作業を実施**。提案の結果、12月のITU-R SG8会合でM.1453-1勧告の**改訂**として採択。現在加盟国による郵便投票中。**今夏には勧告改訂案**となる見通し。

DSRC基本アプリケーションIF検討WG

- DSRCの実用化に不可欠な基本アプリケーションインタフェース仕様を幅広い立場で検討し、推進会議のガイドラインにするため11月にWGを発足した
- 計5回の審議を行い、ガイドライン0.5版の取りまとめ、残存課題を明確化した

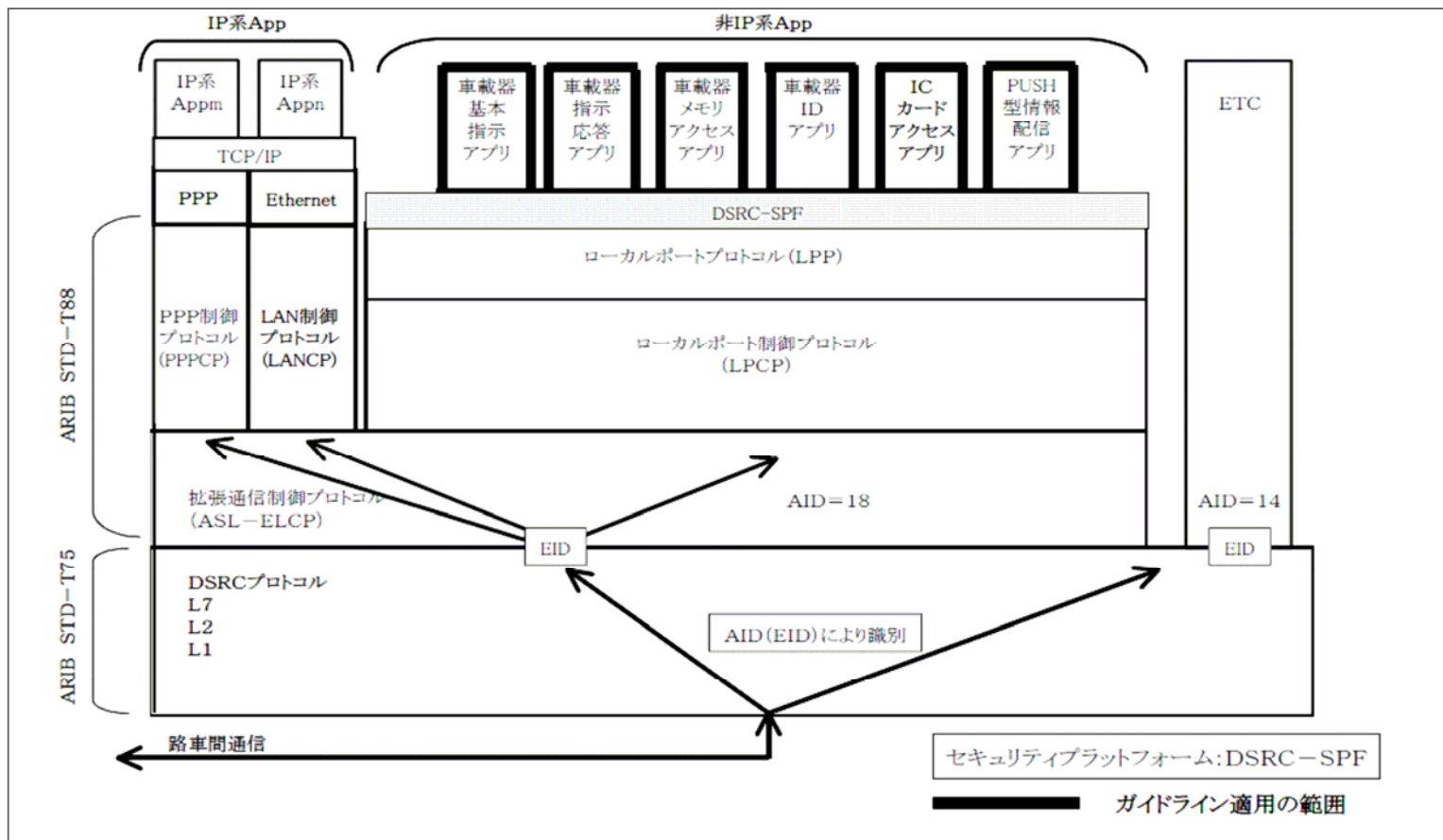
(※)DSRC基本アプリケーションIFとは？

DSRCシステムにおける非IP系のアプリケーションと、ARIB規格で制定されているアプリケーションサプレイヤ(ARIB STD-T88)のローカルポートプロトコル(非IP系プロトコル)との間に、インタフェース部(ライブラリ群)を規定したもの。

各アプリケーションがこれらを組み合わせて呼び出すことで、DSRCシステムを用いた多様なDSRCの非IP系サービスを、より容易に提供することができる

H16年度活動報告：基本アプリIF-WG

基本アプリケーションIFのprotocols上の位置づけ



路側通信システム専門委員会

- 路側通信システムにおける国内外の標準化の動向および分析
- 実用化に必要な規格の策定／改定の検討を通じた健全な路側通信システムの発展への貢献。
- **DSRCの実用化に向けた実装レベルでの検討**を活動の中心とする。

DSRC規格TF

- DSRCのマルチアプリケーション動作環境における**ARIB STD-T75標準規格の精査および改定の手続き**(必要に応じて)
- STD-T75、TR-T16の**最新版の英訳作業**を視野に入れた活動
- DSRCの制度改正に向けた**技術的な支援及び提言**

17年度活動方針(2)

DSRC国際対応TF

- アジア・太平洋地域及び欧米を中心とした**国際協調活動**を継続。
- 本年度ハノーバー(独)で開催される VSC International Workshop (車々間通信システム専門委員会のVSC TGと協力)の成功へむけた活動
- 海外の各会議への参加、意見交換を通じた**海外標準化の動向調査**
- DSRC(T75,T88)に関する国際的なプロモーション

DSRC基本アプリケーションインタフェース検討WG

- 「DSRC基本アプリケーションインタフェース仕様」の**ガイドライン化の推進**
- 仕様の**普及・周知のための活動**(説明会等)。